新島襄の生誕から同志社設立まで

1843年（天保14年）1月14日，江戸は神田川に新島家待望の嫡男として呱呱の声をあげた．祖父の弁治が思わず「しめた！」と膝を打った事から七五三太と名付けられたと言う．いま１つの伝説は松の内（今日のいう旧正月）に生まれたので，めでたいしめ縄にちなんでの命名だという．

青年時代に漢語訳の聖書に出会い，キリスト教の考えに惹かれる．当時，日本は鎖国状態だったためにキリスト教は国禁であった．21歳の時に国外脱出を企てる．

1864年6月14日夜半，英国商人ポーターの商店に勤めていた福士卯之吉の斡旋で，アメリカ商船ベルリン号に乗り込む．ベルリン号の船長セイヴァリ―は義侠心に富む親切な人だったので，ワイルド・ローウヴァー号に乗り換えることができた．ローウヴァー号の船長であるH.S.テイラーに出会い．Joeと呼ばれるようになる．これがのちの襄になる．

1865年7月20日ボストンに入港した後，新島はテイラー船長の紹介でハーディ夫妻の世話になる．夫妻の紹介でアンド―ヴァのフィリップス高校に入学する．2年という異例の早さで卒業する．また，卒業の前年12月30日に洗礼を受ける．高校を卒業した年に，アーモスト大学に進学し，B.S.（理学士）の称号を受けて卒業する．同年には，アンドーヴァー神学校に入学する．

1872年ワシントンで岩倉全権使節団と出会い，通訳を務める．この前年に日本政府から留学免許状を受けていたので，もはや脱国者ではなかった．通訳を務め，欧米の教育制度を視察している内に，日本でのキリスト教に基づく教育の必要性を感じるようになる．

1874年American Board of Commisioners for Foreign Missionsで挨拶し，日本にキリスト教主義の学校創設のための寄付を募った．アピールは反響を呼び，その場で約5000ドルの申し出を得た．同年11月26日に帰国する．この時新島は31歳であった．

京都にキリスト教と近代科学を教える学校をつくるという新島の設計案を支持したのは，宣教師グリーンとJ.D.ディビィス，京都府顧問の山本覚馬であった．山本所有の相国寺門前の旧薩摩藩邸跡地約5800坪を譲り受ける．この土地に1875年11月29日同志社英学校が誕生する．教員は新島とディビス，生徒は開校時８人というスタートであった．

正課の授業では聖書を教えないことを条件で，京都府から同志社英学校の設立が許可された．正課外に外に校外で有志を対象に行う聖書講義やキリスト教の行事が，完全に自由であった訳ではなかったにせよ，新島は活路をそこに求める以外にはなかった．

1883年同志社大学校設立の活動を始めた．新島襄は私立大学を「人民の手に拠って設立」することを考えたからである。当時大学とよばれるものは、官立の東京大学一校のみだった。これに抗して、全国の賛同する民間人の手によって、つまり自発的結社という新しい組織原理によって大学を創ろうとしていた。自発的結社といえば、「同志社」つまり

“志を同じくする個人の約束による結社”

という名前自体この理念を示している。

1890年1月23日同志社大学設立半ばで新島襄永眠する．